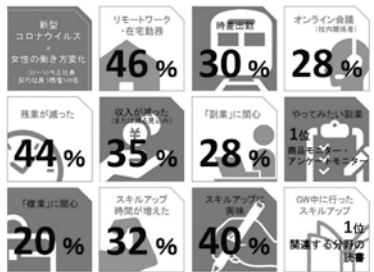


コロナ禍における女性の働き方の変化を調査

トレンドーズ

トレンドーズは、5月7日～8日にかけて、20～50代の働く女性500名(正社員・契約社員・営業職、技術職、事務・企画職、サービス・販売職、専門職各100名、年代別・同居家族に子どもの有無で均等割付)を対象に、新型コロナウイルス感染拡大に伴う働き方の変化について意識・実態調査を行った。

はじめに、リモートワーク・在宅勤務の実施状況・在宅勤務を行っている女性の中には不便さを感じている人も多く、実施女性に6割超が「オフィスや店舗での勤務と比較し、不便さを感じる」(73%)と回答。特に、対面での商談機会が多い「営業職」(73%)は不便さを感じている人が多かった。しかし、全体より10P以上低い「事務・企画職」(52%)などは、差出勤の実施率は30%と比較的不便なく取り組



「働き方の変化」について尋ねたところ、「時差出勤の実施率は30%と比較的不便なく取り組

「働き方の変化」について尋ねたところ、「時差出勤の実施率は30%と比較的不便なく取り組

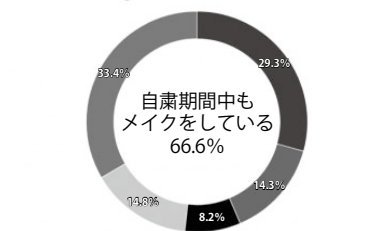
伊勢半 「新しいライフスタイルとメイク」の関連性を調査

伊勢半は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うライフスタイルの変化がメイクに与える影響を把握するため、20～50代の女性601名を対象に「新しいライフスタイルとメイクに関する意識調査」を実施した。

自粛期間中のメイクに関する調査では、約3人に2人(66.6%)が新しい生活様式では、テレビ会議の導入も推奨されていることから、今後はテレビ会議のためのメイク(テレメイク)が増える可能性がある。続いて、マスク着用頻度に関する調査では、2人に1人(55.2%)が「アイライナ

「アイライナ

Q1. 自粛期間中はどのくらいの頻度でメイクをしていますか？
(複数回答可 n=601)



「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

「メイク」の関連性を調査

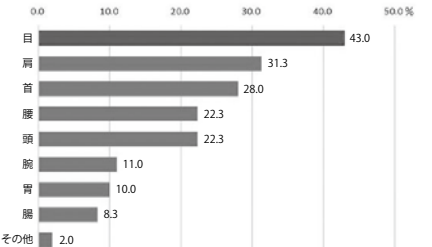
「メイク」の関連性を調査

外出自粛下の目の疲れ・不調に関する実態調査

ライオン

ライオンは、5月8～11日にかけて、東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪府・兵庫県に住む20～60代の男女計300名を対象に、外出自粛生活により感じる目の疲れ・不調に関する実態調査を行った。

その結果、外出自粛生活により、最も疲れ・不調を感じることが増えたのは「目」(43.0%)、次いで「肩」(31.3%)、「首」(28.0%)、「腰」(22.3%)、「腕」(22.3%)、「手」(11.0%)、「足」(10.0%)、「顔」(8.3%)、「その他」(2.0%)、特に無い(44.7%)。



外出自粛となり、疲れを感じることが増えた部位 (MA、n=300)

6%が目のケアを「特に何もしていない」こともわかった。